



第四號

萬國新聞

明治五壬申正月



西垣文庫
文庫10
7367
4



緒言

一邑人智ノ進ムハ一邑ノ開化ニシテ一州ノ開化ニアラス一州人
智ノ進ムハ一州ノ開化ニシテ全國ノ開化ニアラス若僻邑遠郷
ノ人ヲシテ皆其智識ヲ都府人ノ如クナラシメント欲スルモノハ
新聞紙ニ若クハナシ今ヤ新聞紙ノ世ニ行ハルモ鮮シトセス
然レトモ彼ニ精フシテ此ニ粗ナルモノアリ因テ今亦
官准ヲ得テ一種ノ新聞ヲ編纂廣布シテ萬國新聞ト為ス
是他ニ粗ナルモノヲ拾録シテ我ニ精シカラシメントヲ要ス同好ノ
諸君等彼此參觀セハ以テ時勢ノ全體ヲ得ヘシ而シテ其全體
ヲシテ僻邑遠郷ニ及ホシ全國人智ヲシテ都鄙ノ別ナキニ
到ラシムル是我等希フ所ナリ

萬國新聞明治五年第四号

明治四年辛未十二月十六日横濱刊行ガゼット抄訳

西垣文庫



大坂及ヒ長崎ヨリ東京マテノ傳信杭ハ追々出来シテ此節
既ニ沼津ノ市中ニ至レリ此傳信線ハ小田原ニ於テ東海道
ヨリ右ニ切レ一二里ノ間ハ谷ヲ過キ夫ヨリ足柄山ノ上ニ
登リ三島ノ駅ニ至テ再ヒ街道ニ出ツ此傳信機ハ未ル第五
月我四頃ニハ多分成就シテ音信ヲ通スルヲ得ベシ
昨夜本村ノ橋ヨリ日本人一人落テ溺死シタリ

萬國新聞明治五年第四号

交換價格

一分銀 新古共	洋銀百圓ニ付	三百三十一鎊
二分金	同	四百〇一鎊
金札	同	三百七十八鎊

明治四年辛未十二月十五日神戸刊行兵庫新聞抄次
昨日當地英國岡士館ヨリ布告アリ其文ニ曰ク

兵庫大坂ニ在住スル英國臣民等ノ内、舊ノ藩ニ對シテ
訟スベキ事アリテ其證書或ハ約定書類所持ノ者ハ寫
ヲ以テ早々日本政府ニ掛合ニ及ブベク候間本書ハ直

ニ兵庫ニアル英國岡士館ニ差出サレ度候事

吾輩按スルニ前文布告ノ趣意ハ即時ニ訴訟落著スルニハ
アラザレ氏横濱ニ在ル英國代理公使ノ手ニ寫ヲ扣ヘ置キ
テ日本政府ニ掛合ノ助ケト為スナルベシ

兵庫港碇泊商船 八艘
同 軍艦 二艘 但英船

明治四年辛未十月十三日倫敦新報

今日伯靈ヨリ報告アリ曰ク
佛交際ノ情態ニ付テ民心紛
擾セリビスマルク氏密ニ建言アリ當時軍備ヲ愼ル可カラ

スト云今年ノ大會議ニテ軍用ノ為メ軍務局費用ノ見積高
ヲ増シテ再ヒ佛國ノ諸局ヲ領スルノ用ニ供スベシト決議
シタリ又ビスマルク氏建言アリ同氏ノ視察スル所ニテハ
佛國ジールス氏ノ政權甚ダ確實ナラスト云

兵庫新聞第三百二十三号

明治四年辛未十一月二十六日神戸刊行大坂新報

去洋曆千八百六十八年間既ニ約定アリシガ如ク今度外国
人居留地ヨリ安治川ノ北堤へ新橋ヲ架スベキ由ナリ我輩
實ニ喜悅ニ絶ヘス但シ其近邊ノ住民其入費ヲ出スベキハ

定例ナレハ故障ヲ申立ツル者アルガ故ニ政府ニテ多ク其
入費ヲ助ケ玉ハン一ヲ望メルナリ又居留地第二ノ揚場ノ
代リニ在来税関ノ波戸場ヲ長サ三十五間即チ二十一丈北
方へ廣ゲタリ其一分ハ外國人ノ用ニ供シ一分ハ日本蒸氣
船ノ為メニ備フ今度ノ波戸場改正ノ事ハ新税関ノ許可ニ
由テ確定セリ此新税関ハ船客ヲ乗セタル舟ヲ取扱ハス人
ヲ乗セサル船而已ヲ取扱フ処ナリ

明治四年辛未十二月十六日横濱刊行ヘラルド新聞抄

訳

昨日凡第十字頃櫻田御門ノ近邊ニ在ル操練場ニ於テ陸軍 天覽アリ

天皇陛下ハ御途中御馬ニテ供奉ノ官員モ皆騎馬ニテ多人 教扈從ニタリ

陛下宸初ハ御馬上ニテ 御覽アリシカ暫クシテ天^{テント}戸ノ内ニ 入御アリテ練兵運動ヲ 天覽アリ御衣ハ例ノ如ク 白ナリ兵隊ノ負數ハ歩兵凡千六百人騎兵二大隊大砲三 座ナリ 天覽ノ節ハ供奉ノ者ト外國人兩三人ノ外日本 人一人モ其処ニ立寄ラサルハ實ニ不思議ノ事ト謂ッベシ 午後第二字頃 天覽相濟タリ

明治四年辛未十一月十九日横濱刊行ガゼット新聞抄記 本日、米國飛脚船到着ス載來ノ新報左ノ如シ

巴里^{パリ}第十一月二十日 佛國^{フランス}ニテハ來ル一千八百七十二年 第一月下旬迄ニ陸軍兵隊十軍ヲ整ヘ軍備ヲ充實ニシ改正 ノ兵器ヲ携ヘシメテ佛國陸軍ノ本營ニ備置スベシ

伯靈^{ミルリン}第十一月二十三日 今日ベウエリヤ^{ベルギー}耳曼ノ議事院ニ建白書ヲ出セリ其趣意ハ不當ノ所置^{シカク}ヲ為シタル僧官ヲ嚴刑ニ處スベキ事ニシテ此建言行ハルレハ 初テ僧侶民權ヲ棄^{ガク}フノ罪ヲ糾スヲ得ベキ者ナリ 巴里第十一月二十三日 ジールス氏ノ住家ヲ打^{ウチ}毀タル者

共ノ裁許アリ此徒黨ノ者共ハ二年ヨリ二十年マテノ期限
ニテ徒刑トザイニ行ハレタリ

倫敦第十一月二十四日 羅馬法王ハ無理ヲ以テ排出スル

ニ非サレハ羅馬ヲ出立セサルベシトノ事ヲ高官ノ僧ヨリ

言出セリ

巴里第十一月二十五日 大統領ジールス氏ハ軍將ケスシ

イ氏ト共ニ今日ルーエンルン地ニ往キ陸軍ヲ取立ツベキ場所

ヲ見分セリ市人大ニ悦ヒタリ

羅瑪第十一月二十日 米國欽差マルス氏当地ニ著シ市中

ニ米國公使館ヲ立テタリ

ブロスセルス第十一月二十五日 当地ノ一揆平安シテ先

ツ無事ニ見エレ氏人心未ダ平穩ナラス何時又更ニ擾乱起

ルモ斗リ難キニ由テ豫方ノ為メ今日又新手ノ兵隊当所ニ

著到セリ

明治四年辛未十二月朔日横濱刊行ヘラルト抄訳

昨日東京ヨリ荷拵シタル大キナル箱ヲ使ニ託シロスモン

ド會社ニ送リシニ戸部刑場オシキキ近傍ヘ達セシ時ハ凡二字半頃

ナリシガ不意ニ本蔭ヨリ五人ノ者躍リ出二人殺刀シテ木

挺ノ如ク振舞シ使ヲ脅ヤカシ人足等驚愕シ隙ニ乘シテ此

悪漢等右ノ品物ヲ持行キ箱ヲ打破リ其内ヲ穿鑿シテ捨置
シハ貨幣ヲ見出スタメナルベシ若シ其内ニ何一モナキ箱
ナル時ハ悪漢等手ヲ空シテ去リタラシ故此後必ス充分ノ
コトヲ為スナラシ用心スベキ事ナリ
日本郵便所ハ大ニ便利ナレハ当月十四日関局スル由我輩
ニモ告知アリ役所ハ辨天通三丁目ニ建ラレ飛脚ハ日々ニ
午前ハ第九字第十二字午後ハ第四字横濱ヨリ東京ニ差立
ラル、ヨシナリ途中ハ四字間ニテ其書状ノ名宛ノ方ニ達
スヘシト云

明治四年辛未十二月十三日横濱刊行ヘラルド抄訳

日本使節岩倉殿以下ハ当月十五日十一月蒸氣アメリカカ
ニテ恙ナク桑法朗是斯哥ニ到着シタル由ナリ

去ル金曜日、夜東京旅籠町ニ失火アリ此側ノ家屋全ク焼失
セリト云、此火事ハ夜半少シ過ヨリ始マリテ午前第二字マ
デ焼ケタリ

同日郵便ノ者数多ノ書状ヲ持テ戸塚駅ヲ發シ松原ノ半途
ニ到リシ頃木蔭ヨリ盜賊一人出テ郵便ノ者ノ領首ヲ捕ラ
ヘ書状ヲ盜ミ去リタリ因テ郵便役所ノ長官諸方ニ人ヲ出
シテ嚴シク吟味スレ氏今以テ更ニ手懸リナシト云

今日午後弘明船横須賀ニ往カレト當港ヲ発シ路ニテ日本ノ小舟ニ乘リ掛ケタリ此小舟ニハ三人乘組居テ小舟ハ破損シタレ凡人ハ三人共ニ引揚ケラレタリ似シ其内一人ハ少シク傷キタリ

明治四年辛未十二月十七日横濱刊行ヘラルド抄訳

日本ニテハ従前ヨリ政府ノ用ニ供スベキ材木并造船ニ用ユベキ材木ハ官ニテ標記シテ百姓猥ニ之ヲ伐ルヲ許ザリシガ今度此禁ヲ廢シタリ恐ラクハ又暴ニ樹木ヲ伐倒シテ訴訟ヲ受クルトアラシ

日本人常用ノ火鉢ト云者ハ人命ニ害アル事ハ我輩屢々之ヲ論シタリ氏近頃日本人モ追々開化シテ家屋ノ造営方モ畧歐羅巴ノ如ク空氣ヲ漏ササルニ至レリ而テ是迄ノ如ク一般ニ火鉢ヲ用ヒテハ必ス一時ニ數千人死スルトアラシ左スレバ火鉢ヲ用ユル事ハ速ニ止メサルヲ得ザルベシ近年西洋ノ理学此國ニ開ケテ以來室内ニ木炭ヲ焚キテ其毒室外ニ遁レ出ルノ道校隘ナレハ室内ノ動物忽チ斃ル、ノ道理ハ日本人モ必ス會得シタランニ何ソ速ニ火鉢ヲ廢セザルヤ向後西洋風ノ家ニ住ム人ハ必ス火鉢ヲ用ユルト勿レ既ニ此頃我輩此ノ如キ怪我アリシ事ヲ聞ケリ或人一小

室ノ内ニ火鉢ヲ置キテ熾ニ火ヲ起シ室内ニ讀書シ居タリ
友人来テ之ヲ見ルニ既ニ呼吸絶テ知覺ナレ今暫ク此人ノ
氣絶ニタルヲ知ラザレハ決シテ蘇生スルヲテラザルベシ
實ニ恐ルベキナリ殊ニ夕刻杯ニハ決シテ火鉢ヲ用ユベ
カラズ讀書ヲ好ム人ハ別ニテ書籍ヲ見ナガラ心氣疲レテ
我レ知ラス居子ムルヲモ間々アルヲナレハ寧ロ家ノ内ニ
ハ火鉢ヲ禁シテ用ヒザルヲ利トス日本人若シ数年前ヨリ
家ノ建方ヲ改革シテ烟通ヲ造ラハ外國人ヨリ斯ル小言ヲ
聞クヲアラジ

明治四年辛未十二月六日神戸刊行兵庫新聞抄訳

元兵庫縣令中山氏ハ兎角人心ヲ得ザル人ナリシガ先達テ
日本使節ノ中ニ加ハリテ出立セシヨリ縣令闕員ニ付此度
神田孝平ト云人跡役トナリタリ神田氏ハ元徳川藩ニテ集
議院ノ判官ナリシ人ナリ近日東京ヲ出立シテ当港ノ職務
ヲ勤ムベシト聞ケリ

○
銃砲取締規則之ヲレ候條来四月ヨリ規則ノ通相守ル可
キ旨御布令アリ規則書官版ニナリタリ

新發明ノ巧器諸品ノ賣買ノ弘メ引札等ノ類右冊中エ
編入致度候ハ一度出版一行廿三字ニ付價二匁八分五度ハ
五分引十度ハ壹割引ニテ引受出版致候

一新聞十行廿三字ノ一片紙ヲ投シ玉ハ製本三冊ヲ呈ス
一同十行廿三字半片紙ヲ投シ玉ハ製本二冊ヲ呈ス
但奇事異聞何事ニヨラス新聞ヲ寄セ玉ハ刊行發兌スヘシ
然シ無名ノ書ハ編入スル能ハス浮言造説ヲ恐ルカ故願テハ
寄玉ヲ書ニ住所姓名ヲ記シ投シ玉ハシテ願フ

一萬國新聞一冊定價銀二匁毎月五號或ハ六號出版致シ候
發兌号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ二割引
二十冊以上引受分ハ二割半引

R
H
1

發行書肆

賣弘

東京芝神明前

山中市兵衛

同日本橋川瀨石町

村上勘兵衛

同日本橋南二丁目

北畠茂兵衛

西京東洞院三條上町

村上勘兵衛

大坂本町四丁目心齋橋東入

書籍會社